



「地域おこし研究員」に関するお問い合わせ

慶應義塾大学SFC「地域おこし研究員」事務局

〒252-0882 神奈川県藤沢市遠藤5322 玉村雅敏研究室

E-mail : si-researcher@sfc.keio.ac.jp

<https://si.sfc.keio.ac.jp/si-researcher/>

2023年4月 作成

SFCと地域連携による「未来共創プログラム」

地域おこし研究員

「地域おこし研究員」は、多様な主体との協働を実現し、高度なマネジメント能力をもって社会の問題解決を目指すプロフェッショナル（=社会イノベータ）を育成する慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科「社会イノベータコース」が、全国各地の地域と連携して推進するプログラムです。

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）と連携する自治体・組織が、地域の現場での実践的な研究開発を行う SFC の大学院生等を「地域おこし研究員」として任用や依頼をし、SFC からの遠隔と対面での研究指導・支援を通じて、地方創生の実学の推進と人材育成に取り組みます。

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 社会イノベータコース

地方創生の実学と人材育成を、地域の現場から推進する

「地域おこし研究者」7つのポイント

1 全国の自治体・組織にて、報償費等が支払われる立場で任用されます

SFCと連携する自治体・組織にて、総務省「地域おこし協力隊」や「地域活性化起業人」の制度、自治体・組織の独自制度・職員派遣等を活用し、受け入れと協働体制を準備します。

2 大学院入学と同時に「地域おこし研究者」として活動することが可能です

大学院（修士課程・博士課程）の出願と同時に「地域おこし研究者」のエントリーをすることで、大学院入学と同時に「地域おこし研究者」として活動することができます。（大学院の可否と地域おこし研究者の任用はそれぞれ別の基準で実施します。）

3 地域における実践的な研究活動に従事することが可能です

自治体・組織では、SFCとの連携体制のもとで、効果的な活動が出来るよう、受け入れ体制や制度を準備します。

4 SFC「社会イノベータコース」にて、指導・支援を受けながら活動することが可能です

社会イノベータコースは、政策・メディア研究科に設置された「プロフェッショナル育成コース」の一つです。「地域おこし研究者」は、コース指定科目にて、対面・遠隔・集中等の研究指導・支援を受けながら、現場での実践的な研究活動を行います。指定条件を満たした場合、修士号に加えて、サティフィケート（コース修了証）「社会イノベータ」を授与します。

5 SFCの宿泊施設や各地の拠点等で、全国で活動する研究者が集まる定期ミーティングを開催します

全国各地で活動する地域おこし研究者が、月1回程度、SFCの宿泊研修施設や都心サテライト、各地の拠点等に集合し、研究ミーティングや授業等を開催します。

6 遠隔ミーティングで、地域にいながら指導・支援を受けることが可能です

学期中、週1回程度、インターネットを介した遠隔ミーティングを開催します。

7 「慶應義塾大学 SFC 研究所（社会イノベーション・ラボ）サテライト拠点」を連携地域に設置します

連携自治体やその協力機関によって、地域おこし研究者等による実践的な地方創生の研究プロジェクトを行う活動拠点を整備します（地域やテーマによって異なります）。



「地域おこし研究者」が取り組む研究テーマ

地域おこし研究者は、SFCの担当教員からの助言や自治体・組織との調整のもと、地域に新機軸を実現するテーマを設定して活動します。地域が抱える課題を、多様な主体の協働や全国自治体等の連携を実現することで、共に解決することを目指します。

研究テーマ（例）



通い神楽

集落の民俗芸能における集落外の演者の確保（花巻市）



週末住人モデル

“地域コミュニティの一員”になる関係人口創出の仕組みづくり（大山町）



命を守る下校時避難訓練

“釜石の出来事”の滞在型研究と静岡での実践研究（釜石市）

「地域おこし研究者」になりたい

「地域おこし研究者」は、地域の現場での実践的な研究開発を行うSFCの大学院生等の活動を想定しています。また、連携する自治体・組織によっては、SFCの総合政策学部・環境情報学部の学生や大学院進学希望者が、大学院での研究の準備段階から活動をすることや、SFCの大学院を修了した方が「地域おこし研究者」として活動することも可能です。

「地域おこし研究者」を受け入れたい

「地域おこし研究者」は、全国各地の自治体・企業・団体と慶應義塾大学SFC（社会イノベータコース、社会イノベーション・ラボ）が連携協力体制を構築し、推進するプログラムです。慶應SFCと自治体・企業・団体との綿密な協議を経て、協定や覚書を締結した上で、具体的なプログラムを構築することとなります。

詳細は、「地域おこし研究者」Webサイトをご覧ください。

<https://si.sfc.keio.ac.jp/si-researcher/>